

全国一般愛知地本

2020年 3月号

発行 2020年3月26日(木)

発行責任者

全労連・全国一般労働組合愛知地方本部

執行委員長： 煤本 國治



総勢50名による団結ガンパロー

アクリル争議の支援共闘会議 結成される



加藤副執行委員長による決意表明

前日の26日労働会館において、アクリル争議の支援共闘会議結成総会が総勢50名の参加で開催されました。初めに、アクリルOBのベースとサクセスによる演奏が披露された後、愛知地本の恒川書記長による司会のもと総会がスタートしました。主催者挨拶として全国一般中央の東中委員長、愛知連の知崎議長から、アクリル争議の経緯や、支援共闘会議結成について説明がされ、その後アクリル支部の林委員長からアクリルの親会社ダウから不誠実な対応のまま工場閉鎖の発表がされ、多国籍企業の横暴を許してはならない、地域経済をも衰退させてしまう。工場の閉鎖を白紙撤回させる運動を大きく広げ発展させていく必要があるとの訴えがあり、「工場存続に向けて皆で頑張っていきましょう！」と挨拶されました。続いてアクリル支部の濃野書記長からは支援共闘会議会則及び支える会について説明、連帯の挨拶として、愛知争議団団長の植木さん、東京地本書記長の龍前さんから「合理化」のひどさについての訴えがあり、東京地本と一緒に宣伝

行動を行い、活動の規模を拡大していく事の必要性について説明されました。職場からの決意表明としてアクリル支部の加藤副委員長からは入社して3年ほど経つが、この間に結婚したり子供も生まれました人、家を購入した人もいます。会社がこのような事になりとても不安である。これは会社の裏切り行為であり、団交でも会社は他人事のような発言と対応で怒りを感じている。工場閉鎖の白紙撤回のため、これからも全力で闘っていきます！との力強い決意表明がありました。



アクリル支部組合員

最後に愛知地本の煤本委員長から閉会のあいさつで、地本の中では約50年に渡り中心的役割をはたしてきたアクリル支部をなくす訳にはいかない。支援共闘会議を軸に、争議解決に向け、団結してガンパローと会場に響き渡り、総会は無事終了となりました。

(記 執行部)

支援共闘会議と守る会への加入にご協力お願い致します

進する役割を果たしていたこと、敗戦とともに解散したが、翌年に経済団体連合会を設立し2019年で大企業が1412社が参加していることなど

あいち労働学校 大木ゼミ 「経労委報告を切る！」学習会開催

～2月15日～

新聞などの報道でこのような団体、報告はあるの報告を聞いて、大木先生の「海外にも多い」と思いますが、このように報告はない。仮にこのような内容で発表されれば大問題になるだろう。いわば企業の自主的な行動を制限し、一律に「経営労働政策特別委員会報告」についての学習会に参加しました。大手自動車メーカーの「綱領」なるものも読む機会がありましたが、全体主義的な内容に驚きました。もし、自分がこのように渡されて「よく読んで暗い気分になりそうです。ひとりひとりがよく学んで考えて行動することが大事だろうと感じました。」

（地本書記長 記）



月刊誌「学習の友」

はじめにアクリル支部の林委員長からアクリル争議のこれまでの経緯について説明され、会社側は都労委からの要望書、会社に対して出されそれを無視し閉鎖を進めている事、アクリルの親会社はダウ・ケミカル日本であり米国ザ・ダウ・ケミカルカンパニーの為、団交の申入れを行ったが拒否してきた事、工場閉鎖の白紙撤回をさせるには、ザ・ダウ・ケミカルカンパニーを団交の場に引きづり出させる必要があると説明、多国籍企業が、都の労働委員会からの要望も無視し勝手に閉鎖を進める。日本の中でこんな身勝手な横暴を許してはならないし、地域経済の衰退を許してはならないと考えている。国会議員である本村氏に、国会

日本共産党議員との懇談会開催

3月8日、愛知地本事務所において、日本共産党衆議院議員の本村伸子氏、愛知県委員会労働部長の植田氏とアクリル支部と日本アクリルの工場閉鎖問題についての懇談会を開催しました。

（記 執行部）

～アクリル支部からの切実な訴え～

【今後の日程】

- 3月29日（日）
あつた支部第9回定期総会
- 4月04日（土）
アクリル争議意思統一
&懇談会
- 4月08日（水）
愛労連幹事会
- 4月10日（金）
第8回五役会議
- 4月16日（木）
第3回都労委審問会
- 4月25日（土）
第2回アクリル争議
支援共闘会議
- 4月30日（木）
メーデーの準備
第8回執行委員会



本村伸子衆議院議員との懇談の様子

第91回愛知県中央メーデー

日時：5月1日 9時30分～

場所：白川公園

集合場所：中央舞台に向かって左の第一コース
(デモ：広小路コース)